

巻 頭 言

院長 遠 藤 一 靖

仙台市立病院医学雑誌第26巻が発刊されることになりました。本号は原著、症例報告、コメディカルレポート、救命救急センター症例検討会記録について研修医、看護師、検査科など院内各部門よりの18編の論文より構成され、内容も豊富で多岐にわたっており例年同様充実したものになりました。日常業務が多忙の中で努力された執筆者、編集委員の方々に感謝します。

当院では臨床研修病院として、初めて新医師臨床研修制度により必修化された2年間の臨床研修プログラムを終了した1期生14名の初期臨床研修医を送り出しました。14名の諸君はさらに専門医を目指し、レジデントとして1年間の研修を深めることになります。過去2年間は全く新しいシステムに戸惑いながら臨床研修管理委員会を中心に充実した臨床研修にするよう努力し、研修医諸君のそれぞれ立派に成果を上げています。幸い当院は学生の支持を得られており、希望してくれる学生も多いのですが、安全で納得のいく医療を提供しつつ、当院の特性を生かし、いかに実践的で広範な教育指導をするかに力を注ぎ、次世代の臨床・研究・教育の担い手のなるリーダーとなるよう、さらに良い研修システムを構築していかなければなりません。

今、医療環境は経済の停滞、少子高齢化により大きな変革期を迎えており、さらに社会、患者さんのニーズ、意識の変化、多様化など、求められる医療が大きく変化しています。医療に求められているのは患者さんの目線に立った安心で安全な質の高い医療の提供であることは論を待たないところです。医療の安全についていえば、1人の患者さんが入院してから退院までに必要な検査、投薬、点滴、処置、麻酔、手術、輸血など、それぞれ必要とされる手順をすべて含めると実に5万以上の手順になるといわれています。この手順のどれか1つで手違いが生じても重大なアクシデントにつながる可能性があります。医療の安全には個人の資質・注意にのみ依存することはできず、人は間違いをおかす存在であり、医療は不確実であることを認識して、院内の安全管理体制、チェック項目の整備など日常の危機管理システムとして十分に機能していくことが最も大切になります。

医療の質とは、上で述べた医療の安全の他に物的・人的資源、高度な治療、チーム医療やインフォームド・コンセントによる患者さんが納得する医療の実施、クリティカル・パスの実施、ガイドラインに準拠したEBMによる医療、治療結果の臨床指数（クリニカル・インディケーター）による数量化などを実行すると確保されます。これら医療の質の評価では従来の医学的所見に基づく医療者側の尺度のみではなく、患者さんの視点に立った患者さんの尺度が大きく反映されなければなりません。また、この医療の質の向上には一人ひとりが問題意識を持ち、創造性を発揮して自己啓発・相互啓発を図ることが求められ、いずれも院内各職種の良好な連携、協力によるチーム医療が必須になります。

医療レベルの向上には、一人ひとりの自主的な研鑽が大切であり、論文発表、学会活動などは大変有効な手段になります。この点でも本誌を今以上に効果的に活用していただきたいと考えています。